

最近経験した見切り発車

梅田富雄（化工会）

しばしば目標をあいまいにしたまま、行動を起こすことがあります。先日のこと、品川で行われた講演会に出掛けた時の話です。グーグルマップで調べ、行先の会社に電話をして安心して問題なく到着できると思って出掛けました。品川駅について南口から川崎方面に歩いて行ったところ所定の場所に到着できず。近くのビルに入り訪ねても知らない様子で少々慌てました。

先方の電話番号はメモしてこなかったため、講演会主催の会社に電話をして問い合わせた結果、近くにあるコンビニを目標に行くように言われ、近くを探したが見当たらず、たまたま昼食を終えた中堅の会社員が近くを通りかかったので、尋ねたが知らないとのこと。自身のスマホを取り出し最初は同じグーグルマップでわからないので、住所で調べ近くにあるビルの中にあるらしいことを確認してくれました。講演会主催の会社の入っているビルの名前が表示されていなかったために手間取り、少し離れた、道路を渡った先の辺りにあるらしいことを教えてくれました。道順がはっきりしていないので、わざわざ近くまで一緒に歩いて誘導してくれました。仕事の跨げになってしまい申し訳ないと謝罪しましたが、気にされず、本当に助けていただいたことを感謝し、近くにビルがあるので、もしかして三菱重工さんですかと尋ねたこと、そうですとの返事を受けて同じ三菱系列の千代田にいたことを伝え、少々懐かしさを覚えて短い会話をしました。本当に親切な方でした。見切り発車のために戸惑いましたが、偶然親切な方に出会うことができました。

講演会では、経産省の方が最近発行の「ものづくり白書」の概要を説明し、次いでスマートファクトリーに関連する機器やソフトを販売している企業からの報告、PRがありました。

スマート化を試みる製造業では、一部を除き、何をどうすればよいか見当がつかず、投資効

果がはっきりしないので予算がつかず、取り敢えず見切り発車される企業が多いことを話していました。ここでの見切り発車は目標がはっきりしないことに起因しており、私の先ほど述べたことは異なるものです。このような将来のことが不確定なケースには現状からフォワードルッキングのアプローチで進めることが多いようですが、将来の姿を想定し、逆中で現在に向けてどうなるかを求めるバックキャストイングという、複数のシナリオを作成し相互に比較検討し最適なケースを選んで実行するアプローチがあります。振り返って今回のように道順がはっきりせずにトラブルになることなど思ってもいなかったことでバックキャストイングの方法で対処すべきであったかもしれません。

やはりスマホに買い替える必要があるのかもしれないと考えている今日この頃です。

帰宅後住所で調べてよくわかりました。反省。(2018-9-9)

https://www.isid.co.jp/isid/company/pdf/map_ISIDheadoffice.pdf